東海音頭の概要

世代を超えて響く，村のシンボル東海音頭

1980年の誕生から現在，そして100年先の未来へ。
村民の心と，村の魅力をつなぐ魂のメロディ。

生涯学習課・生涯学習担当

東海音頭とは

東海音頭　は，1980年（昭和55年）に東海村の誕生25周年を記念して制定された，村を象徴する「シンボリックな楽曲」です。歌詞は村民から公募され，当時の最高のスタッフによって制作されました。

1.豪華な制作陣と誕生の背景

「北の宿から」でレコード大賞受賞

制作経費２１４万

歌手：都はるみ　氏（独特の「都ブシ」が特徴）
作曲：山路進一　氏（「柔道一代」などの名曲を手掛けた）
振付：榊原帰逸　氏（東京舞踊学校学長）
制定日：昭和55年，村民会館での披露式典にて発表

2.歌詞に込められた東海村の姿



歌詞は1番から5番まであり、歌いながら村の歴史や環境を巡る「ご当地ソング」となっています。

1番：のどかな自然と先端技術（原子の火）
2番：豊かな自然（砂丘、月見草、久慈川）
3番：歴史ある寺社（村松虚空蔵尊、大神宮）
4番：特産品（ぶどう、梨、稲）と名勝（村松晴嵐、阿漕が浦）
5番：未来に向けた明るい展望

3. 地域に根付いた文化と普及活動

東海音頭は世代を超えて親しまれています。
主な披露の場：夏の風物詩「東海まつり」でのパレード，小中学校の運動会，地域のお祭りなど。
普及活動：昭和59年に設立された「東海音頭保存会」が，踊りの継承や指導，イベントでの披露を継続しています。村内の小学校でも教えられているため，多くの村民が踊ることができます。
40周年記念：2020年に制定40周年を迎え，新型コロナの影響による延期を経て，令和5年には期間限定で防災行政無線のチャイムとしてメロディが放送されました。

4. 東海音頭を踊る意義

①多くの村民と一緒に「東海音頭」を踊ることで，東海村の伝統文化に触れるために。
②小学校から中学校までの９年間で「東海音頭」を学び，踊ることで東海村に生まれ育った村民の一人として，地元に対する愛着や誇りに思う気持ちを育むために。
③「東海音頭」を踊ることで東海村を知り，１００年先まで「東海音頭」を伝えていくために。

5. 後世への継承

近年では中学生や原子力事業所，村職員なども参加する大規模なパレードが行われています。100年続くことを願い，若い方たちに踊り続けてほしいです。
2025年には初の「仮装コンテスト」も開催されるなど，時代に合わせた形で郷土への愛着や誇りを育むツールとして受け継がれています。